

# 日本医療福祉生協連近畿ブロック有志 ボランティアセンター 東日本大震災支援ニュース

NO. 11 2011年5月17日 発行担当 ヘルスコープおおさか・黒田

## 力仕事をがんばりました



花釜区のHさん宅で、棚の移動をお手伝いしました。大人4人がかりでやっと運べる重さで一苦労しました。またHさんには、物資をすこしお渡しし大変よろこんで頂きました。この周辺の住民の方は津波の被害の後にコツコツ家の片付けをされていますが、住民の方やご家族だけではとても運べない物もあると思います。今後もそのような方に、少し援助の手を差し伸べたいと思います。

## 被災者の方にりんご・ラジオが届くように

同じく花釜区の方からご要望があったので、ラジオカセットをお届けしました。花釜区には、回覧板などの情報伝達が確立されていないので、情報が手に入りません。このご夫婦はご高齢でなかなか役場に行くことができません。ラジオカセットをお届けすると「これでりんご・ラジオが聞ける」と非常によろこんで頂きました。情報の格差をどの様に是正するのも、今後の課題だと思われま



## 細かなニーズにも対応します



山元町から角田市の避難所の被災者の方に、以前からお願いされていた電動自転車をお届けしました。80歳代の男性の方は早速試乗され、「乗り心地が良い」と言って下さいました。

その方には、腰痛を抱えておられる奥さんが居られ、介護福祉士の竹島亜矢（なにわ保健生協）がお話を伺いました。お話の中から、奥さ

んに介護の必要があると思われ、介護サービスや介護保険の申請の為、角田市の社会福祉課を訪問しました。そこで保健師の方とお話し、今後奥さんの支援も検討して頂けるとの約束をしました。



## 坂元地区の元区長さんとの懇談

坂元中学校の避難所では、元区長の島田利雄さんとお話しました。避難所の中で、二次の仮設抽選にはずれた方や坂元支所への移動に対する不満が出ているとのことでした。また、身体が不自由な方も抽選から漏れたようで、選考に疑問の声が上がっています。しかし、島田さんは「最後の一人になるまで仮設に残る」と仰っており、何とか被災者をまとめられるように努力されています。一日も早い仮設の建設が待たれます。